

## 令和4年度病害虫発生予察注意報第6号

令和4年9月8日

岐 阜 県

作物名 トマト（夏秋型栽培）

病害虫名 トマト灰色かび病 (*Botrytis cinerea*)

1 発生地域 中濃、東濃及び飛騨地域

2 発生時期 8月下旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

(1) 8月中旬以降、葉先枯れや花がらなどの枯死部に、本病による胞子の形成が多数認められる。

(2) 8月下旬の巡回調査では、各地域の平均発病株率は36.0~67.7%、ゴーストスポット<sup>注</sup>果を含む平均発病果率は2.8~24.9%と、8月上旬調査時と比較して急激に増加している（表）。

注）灰色かび病菌の胞子が果実表面に付着し生じる黄白色円形の中心点がある小斑点のこと。

(3) 8月中旬以降頃から降雨日が多く、日照時間の少ない期間が続いたため、本病の発生に好適な条件が継続しており、曇雨天が続くと病害の発生量がさらに増加することが懸念される。

5 防除上の注意事項

(1) 発病した部位（果実や葉、花がらや葉先枯れ）は伝染源となるため早急に取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

(2) 果実に付着している花がらや葉先枯れは、感染源となるため見つけ次第除去する。

(3) 20℃前後の気温と90%以上の高湿度が続くと蔓延するため、わき芽かき等を適切に行い、通風をよくする。

(4) 着色促進のためサイドビニール被覆を行うと、風通しが悪くなり、ハウス内の湿度が上がり本病の発生が助長されるため、管理には十分注意する。

(5) 葉かび病やすすかび病などの多発により葉が枯死すると本病の発生源となるため、これらの病害についても適切に防除する。

(6) 県内夏秋産地では、QoI剤やSDHI剤に対する耐性菌の発生が報告されているため、薬剤防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤でのローテーション防除に努める。

(7) 農薬は、最新の登録情報（<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム）を参照し、適正に使用する。

表 トマト灰色かび病の発生状況調査結果

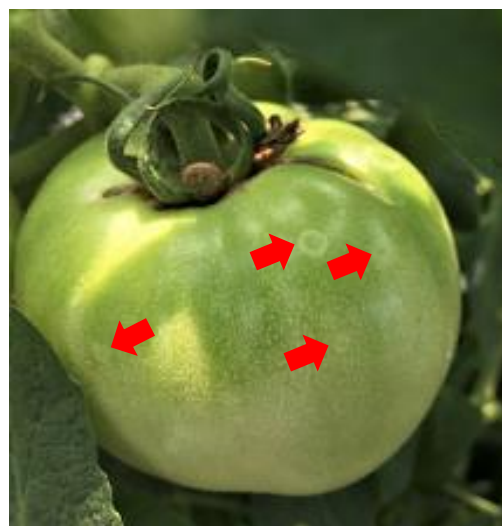
調査地点	8月上旬		8月下旬		
	発病株率(%)	発病果率 (%)	発病株率(%)	発病果率 (%)	
中濃地域	白川町	2.0	0.0	30.0	2.1
	東白川村	56.0	2.0	90.0	3.5
	平均	29.0	1.0	60.0	2.8
東濃地域	恵那市	18.0	13.7	74.0	44.0
	中津川市①	—	—	58.0	11.0
	中津川市②	—	—	71.0	19.7
	平均	18.0	13.7	67.7	24.9
飛騨地域	高山市①	4.0	0.0	10.0	0.6
	高山市②	—	—	6.0	0.0
	高山市③	—	—	16.0	3.8
	下呂市①	24.0	1.8	54.0	3.9
	下呂市②	—	—	94.0	60.0
	平均	14.0	0.9	36.0	13.7

※ 発病果はゴーストスポット果、腐敗果を含む

※ 8月下旬の調査日は、中濃地域8月19日、東濃地域9月1日、飛騨地域8月17～22日



葉先枯れに発生した灰色かび



果実表面に形成されたゴーストスポット